

保護者の方・地域の皆様へ

子どもたちの様子あれこれ・・・

ようこそ1年生ご報告・・・

児童館の中では・・・

ホールでは・・・

学童クラブの定員が80名となり、館内は毎日大賑わいです！！

2台の卓球台が毎日フル稼働。2台しかないの、まずは「てんつき50回」をクリアしないと台は、使えるようにならないというのが最初のきまり。下校の早い低学年から、中学生まで時間帯によって交替しながら、遊んでいます。卓球タイムの成果もあり、全体のレベルが上がってきて春休みには館内卓球大会も実施しました。

最近ひそかに、「はごミントン」ペアチャレンジも実施中。高学年を中心に記録に挑戦しています。羽子板でバドミントンのシャトルを打つという遊びです。点数を競うよりもペアを組んで落とさず何回続けられるかを競っています。相手から点を奪うのとは違い、相手のどこに打ったら打ちやすいか考え、息を合わせて行うのがポイント。今は、5年生ペアの108回が最高記録です。

ロフトでは・・・

子どもたちの意見を聞き4月から新ルールとなりました。4年生以上、定員5名まで。電子ゲームだけでなく、トランプやウノなどカードゲームを設置し、おしゃべりだけでも使える場所となりました。より快適に・・・という発想から「扇風機つけたら？」などの意見も出ています。子どもたち同士交渉しながら、時間を決め上手く交替し合って遊べるようになりました。

工作室

工作室と呼んでいますが、テーブルと椅子があり、ボードゲームやカードゲーム、持ち込みのゲーム機などで遊んでいる子が多いです。宿題や塾の勉強をしていたりもします。低学年の子どもたちは、お絵描き、折り紙など、高学年や中学生になると、スマホ片手に友だちとおしゃべりに花が咲いたりしています。時には、怪しげな会話が聞こえてきて・・・職員が聞き耳をたてるとやめたり、注意することもあります。



大和児童館 運営協議会

地域の皆さんと児童館の運営や地域の子どもたちについて話し合う場です。今年は子どもの権利条約についての話し合いも予定しています。会議の様子などはまた報告していきたいと思っています。

4月19日(金)に「ようこそ！1年生」を行い、40人以上の1年生と、保護者の方に来ていただきました。

最初にホールに集合し、児童館の使い方やルールを紙芝居で学んでから、館内を巡り、どんな部屋があるのか見て回りました。再びホールに戻り、次は、「みんなであそぼう」タイム！最初に説明した児童館のルールをきちんと覚えたか？〇×クイズ形式で楽しく復習しました。最後は、ぐるぐるドンジャンケン。床にテープで貼ったぐるぐるコースを早歩きで進みながらのドンジャンケン！！ジャンケンの勝敗に一喜一憂しながら大盛り上がりでした。

この行事に向けて5年生の数名が、児童館のルール説明の紙芝居の絵をわかりやすく描いてくれる等、準備を手伝ってくれました。紙芝居は大好評！最後に手伝ってくれたメンバーを1年生に紹介したかったのですが、下校時刻が遅い高学年。全員は揃いませんでしたが、1人の子が急いで駆けつけてくれ、みんなに紹介することができました。

今年の1年生は、とにかくエネルギーでパワフル！元気がありあまっているという印象でした。今後も子どもたちと遊びを通して関わり、子どもたちの様々な育ちの応援をしていきたいと思っています。

公園では・・・



公園は、児童館の管理している場所ではないので、子どもたちが遊んでいる時間、職員が常に、遊びの見守りをしているという場所ではありません。

しかしながら、子どもたちは大人の目がなくとも、毎日たくましく遊んでいます。おにごっこでひたすら走り回ったり、プレーパークごっこ(?)のノリで落ちていたひもを使って木に張ってみたり、ちょっと暑くなってくれば、水鉄砲合戦！と思いきや、玉の出る鉄砲を片手に追いかけてっこしている子たち・・・

(玉の出る鉄砲は、人に当たる危険があるのでやめるよう注意しています。)

そして、子どもだけでは、どうにもできない問題がおきるとすぐに児童館にSOSが飛んできます。「転んで血が出たから消毒して～！」「〇〇と〇〇がけんかしてる！！」「〇〇が木から落ちて・・・」「〇〇が枝に頭を打って動けない！」「嫌だって言っているのにやめてくれない！」「〇〇が人の物を勝手に使って遊んでる！」などなど・・・職員が行って話を聞き、対応することが多いのが実態です。

また、おやつを持ってきて食べているお子さんが多いですが、公園にゴミ箱はありません。ゴミをそこら中に捨ててしまう子が多い中、職員がゴミ拾いしていると、「手伝ってあげる～！」と言って一緒に手伝ってくれたり、職員が持ち帰るよう注意している様子を見ていた子の中には、「この前〇〇が捨てたから注意しておいたよ！」「この前、ゴミがあったから、拾って持って帰ったよ！」など言葉をかけてくれる子もいて、ちょっとうれしい気持ちになることもあります。